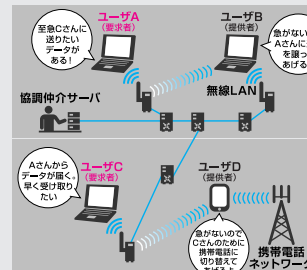


通信ネットワーク協調利用メカニズム

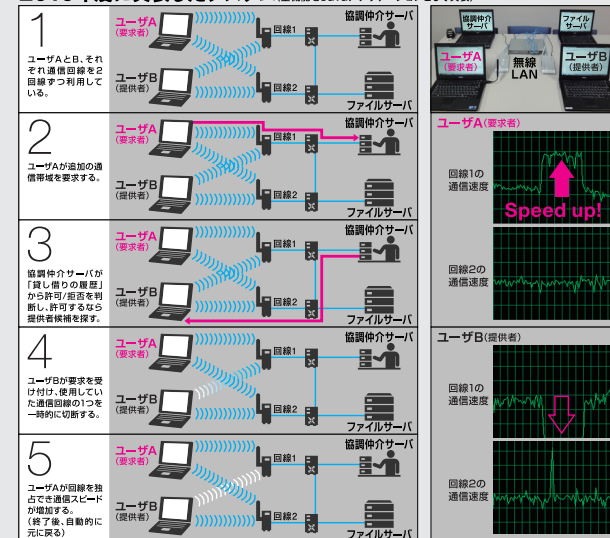
～助け合って通信すれば皆Happy! に～

通信ネットワークが多数のユーザによって競争して使われているのはご存じですか？他の誰も使っていないスライスを使えますが、皆が一斉に使うとネットワークはパンクしてしまいます。

京都大学情報学研究所高橋達郎研究室の新熊亮一助教のグループでは、ユーザ間で協調して通信ネットワークを使う「メカニズム」を研究開発しています。緊急の用件や大事な用件で通信ネットワークを使用するときに、緊急度の低いユーザにお願いして、通信回線の一部を一時的に借りることができます。緊急時には譲ってもらい、平常時には譲ることで、お互いに助け合う。限られたネットワーク帯域を効率的に活用することが出来る「メカニズム」です。



2010年度に実装したシステム(全機能をJavaアプリケーションとして実装)



本研究開発は、国立大学法人神戸大学大学院システム情報学研究所の太田龍雄教授、国立大学法人大阪大学サイバーメディアセンターの長谷川剛准教授、国立大学法人京都大学大学院情報学研究所の新熊亮一助教、学校法人朝日大学経営学部の実守泰子准教授、日本電気株式会社システムプラットフォーム研究所の村瀬勉主任研究員、本音彦主任研究員、ならびに米国NJ州WILEY AB (Wireless Information Network Laboratory) (Dipankar Raychaudhuri教授、所長)、米国FL州University of Miami (Dilip Sarkar准教授) の連携による「無線・有線コネティビティ環境におけるユーザを主体としたネットワーク制御」を開発する産学連携研究プロジェクトの一環で行われています。本プロジェクトは、独立行政法人情報通信機構の平成22年度委託研究「新世代ネットワーク技術戦略の実現に向けた萌芽的研究」の支援を受けていました。

京都大学の研究成果を発表するリーフレット。左側にグラフィカルなビジュアルを帯状に配置して統一フォーマットとした。研究機関の発行物となるので、白とグレーを基調として落ち着いた基調で構成した。

The leaflet which announces the results of research of KyotoUniversity. I located a graphical visual on the left side in a belt and assumed it a general format. Because it became the issue of the research organization, I was based on white and gray and constituted it with a calm basic tone.

<http://www.blackdesign.jp>